

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo 1.6 2006年2月号

今月も「ひろさちや」さんの本に載っていた話をご紹介します。
クルイロフというロシアの寓話作家の「あわれな金持ち」という話です。

ある男が不思議なサイフを手に入れます。サイフには金貨が1枚入っています。でも金貨だとリアリティがありませんから、ひろさちやさんと同じく500円玉にしましょう。サイフに入っている1枚の500円玉を取り出して一度サイフを閉め、もう一度サイフを開けると、なんと、また500円玉が入っているというサイフです。これを繰り返せばいくらでも500円玉が出てくるといふ夢のようなサイフです。でも、取り出した500円玉を使うためには条件があります。

その条件とはサイフを捨てることです。

男はサイフを必死に開け閉めして500円玉をため続けます。もう何億円もたまっているかもしれません。でもサイフを捨てない限りそのお金を使うことはできません。そのうち食べ物もなくなってきたので、男はサイフを捨てようとしています。でも、捨てようとするたびに「もう少し取り出してから捨てよう」と言ってなかなか捨てられません。とうとう、この男は取り出した500円玉を使わないまま飢え死にしてしまうというお話です。

ひろさちやさんによると、このサイフは人間の欲望そのものだといひます。捨てようとしても捨てられず、むしろどんどんふくれあがって満たされることのないというのです。お釈迦さまは、「人間の欲望というものは、たとえヒマラヤの山を黄金に変えても満たされることはない。」と言ったそうです。

以前「毎日楽しく」で欲を少なくすれば幸せになれるという話を書きました。この男も「もうこれで十分」といってサイフを捨てて、取り出したお金を使うことができれば幸せだったかもしれません。

でも、みなさん、もしこんなサイフが手に入ったら、途中で捨てる自信はありますか？ わたしはやっぱり飢え死にしてしまうかも。

